「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース　キャティ）

２０２２年１月　第143号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　矢口元晴

パウダースノー最高
「野外体験」を履修して　スキー、スノボ満喫

北海道の自然環境を活かした授業である田中一徳教授の「野外体験」を履修する動機は2つあった。1つはシラバスに記載されていた「雪のコンディションの特性を理解し、リスクマネジメントや安全に活動するための各種スキルを学習する」の項目に興味があったからだ。これは、今後スキーを含めたウインタースポーツを実施するためにとても重要だと感じたからだ。

2つ目は、極上のパウダースノーを満喫できる北海道でスキーをしたいからだ。今まで私は本州のスキー場経験しかなかったため、「パウダースノー」と聞くだけで早く滑りたくなってしまった。

実習当日、会場の富良野スキー場までは、大型の貸切バス3台で向かった。バス内は感染症対策を講じ、乗車定員の半分の指定座席で人数制限をしながら静かに移動したが、気持ちのワクワクとドキドキが止まらなかった。スキー場の積雪は100㌢ほどであった。そのため、滑走可能なコースに制限があったが、スノーボードをやっている友人と2人で楽しく滑った。

富良野の雪質は本州の雪とは別次元であった。滑走中にバランスを崩してしまい、何度か転倒したがゲレンデの雪がフカフカで柔らかったため、全く痛くなかった。このような恵まれた環境の中で、北海道の上質な雪質を利用し、「スキーの技術を磨いてやるぞ！」という新たな目標も出来た。

今回の「野外体験」の履修は、北海道の極上なパウダースノーを経験し、今後のスキーに関する目標だてをするにあたっても貴重な体験となった。（国文学科１年／長濱陸）

武石英孝先生にインタビュー
「創造の楽しさや喜びを知って」
受講生の作品展も楽しみ

１年生の「造形の基礎」はものを〝描く・作る〟という基礎を鉛筆や絵の具など道具の使い方から学びます。写真は、後期に行われた授業風景です。白い張り子の達磨にアクリル絵の具と樹脂粘土を使用し、自由な発想で自分だけのデザイン達磨を製作します。古来の型にはまることなく、耳やしっぽが付くなど楽しい作品が次々と生まれてきます。

そのほか、2年生の「造形表現」では、1年生の基礎を踏まえて、様々な素材を使用して平面から立体への造形を幅広く実習しています。モチーフは人物や風景など色々ですが、とくに大きなサイズ（F100～130）は年に2～3点は必ず描いています。毎年行われる日展・光風会展（国立新美術館や道展（札幌市民ギャラリー）の展覧会へ出品するものです。

毎年の出品は大変ですが、お陰様で、一昨年には日展で特選を受賞することができました。

〇自身の作品制作について

自宅で油彩作品を制作しています。モチーフは人物や風景など色々ですが、とくに大きなサイズ（F100～130）は年に2～3点は必ず描いています。毎年行われる日展・光風会展（国立新美術館や道展（札幌市民ギャラリー）の展覧会へ出品するものです。

毎年の出品は大変ですが、お陰様で、一昨年には日展で特選を受賞することができました。

〇オープンカレッジ講座「絵画の制作」について

前任の黒阪先生から引き継ぎ、開講したところ、前期・後期ともとても多くの方々に参加していただきました。何より皆さん熱心でとても活気あふれる楽しい時間となりました。

講評会では鉛筆、水彩、油絵など様々な画材で制作された個性あふれる力作が並び、時間が足りないほどでした。受講生の一人ひとりの作品を展示する〝はる展〟が今から楽しみです。

【プロフィール】武石英孝（幼児・児童教育学科准教授）　北海道教育大学札幌分校特別教科教員養成課程美術工芸科卒業。今年4月に本学に着任。担当授業は、「造形表現」等。現在、目展会友、光風会・日本美術家連盟・道展・岩見沢美術協会の各会員として、毎年道内外で作品を発表しています。

DVDに影絵などを収録
楽しい発表会

今回、私たち幼児・児童教育学科幼児保育コース2年生は、「総合表現Ⅱ」という授業の中で、影絵をメインとした子ども向けのDVD制作を行いました。例年実施していた「楽しい発表会」がコロナ禍で、まだ幼稚園等で実施できないと判断したからです。

「子どもたちに見せるDVDをみんなで作る」「影絵を行う」と聞いたときは、影絵を作った経験もないため、自分の中でどういったものができるのかあまり想像できませんでした。影絵の題材（はなさかじいさん、こぶとりじいさん）が決まり、台本を書いて、人形や背景の制作を行いました。練習では、何回も失敗を繰り返しその度に話し合いをして改善をするという試行錯誤をしながら制作を進めていきました。

「楽しい発表会」のDVD制作は、影絵だけではなく、手遊び、絵描き歌、ハンドベルの三つも行うことになっていたので、後半は影絵の準備をしつつそれらの練習も行わなければならなかったため、だんだんと時間に余裕がなくなってきていましたが、それでもみんな一生懸命練習に取り組みました。

迎えた本番では練習でできていたところがうまくいかなかったりして、何回も撮り直しをしながら行っていきました。正直最後まで完璧と呼べるものにはできませんでしたが、コロナ禍の中、みんなで一つのものを作り上げた経験が少なかったので、とてもいい経験になりました。北海道の豊かで厳しい自然とともに、大学生活の思い出にもなりました。子どもたちがDVDを観て、喜んでくれることを期待しています。

（幼児・児童教育学科幼児保育コース2年／盛口颯介）

國學院大學編入学者決定

令和４年度國學院大學３年次への編入学者が決定しました。國學院大學の５学部11学科へ、１６７名（推薦）の学生が令和４年４月から東京渋谷キャンパス及び横浜たまプラーザキャンパスで学ぶことになります。

なお、國學院大學以外の四年制大学では、現在国士舘大学２名、流通経済大学２名、駒澤大学１名、文教大学１名、東洋学園大学１名の編入学が決定しております。

学部	学科	推薦者数
文学部	哲学科	11
	史学科	21
	日本文学科	35
	中国文学科	2
	外国語文化学科	19
経済学部	経済学科	22
	経営学科	22
法学部	法律学科	5
神道文化学部	神道文化学科	16
人間開発学部	初等教育学科	7
	健康体育学科	7
合計		167

国文学科卒業論文発表会
研究テーマ堂々と披露

国文学科の卒業論文発表会が12月18日、國學院大學北海道短期大学部で行われた。各ゼミから1名ずつ選出された代表者7名が発表した。

中国文学から近代の「郷土部隊」に関するものまで幅広い発表であった。学生たちが限られた時間の中で発表できるように提出したレジュメはB4サイズ一枚分で、どの発表もギッシリと書き込まれていて、彼らの熱意がうかがえた。

特に、秋山ゼミの岩崎友香さんの発表「通常の学級における特別な教育的支援の実践―インクルーシブ教育システムの構築に―」は、義務教育である小・中学校という学びの場における特別支援教育に関するテーマであり、非常に興味深かった。特別な教育的支援の歴史を振り返りながら、現状の特別支援教育が日本ではどのような形で行われているかを発表している姿は、堂々としたものであった。レジュメを読み上げるだけなく、聞き手側の反応を伺ったり問いかけるなどの話術や、黒板に掲示物を貼り図を用いて解説する姿は、今後教育現場に携わることとなっても、しっかりと行動できるだろうという安心感を与えてくれた。

発表後は恒例のビンゴゲームで盛り上がるなど、学生たちが久々に一堂に会し、若者らしく会話する姿が、印象に強く残った。（国文学科２年／高桑美夏）

総合教養学科研究発表会
多角的な考えに触れる

12月5日、ホテル三浦華園で令和3年度総合教養学科研究発表会が開催されました。研究発表会では各ゼミから11本の研究が発表されました。

私は各ゼミから選出された10人の運営委員とともに、企画運営にあたりましたが、新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となった昨年の発表会と違い、今年は対面形式だったのでホテルとの打ち合わせや学生の誘導、連絡など大変苦労しました。特に数回の運営委員会では準備の時間が足りず、発表者への連絡が遅くなったことやリハーサルを本番当日しかできなかったことなど運営委員長として申し訳なく思いました。

さて、今回の研究発表会の最大の成果は、多様な考え方に直接触れることができたことだと考えます。普段、ゼミナール同士の交流はほとんどないのですが、この研究発表会を通して、他のゼミナールでの研究の状況を知ることができてとても新鮮でしたし、他学年の研究発表には私たちが考えたこともないような内容もあり、多角的な観点から研究することの大切さを実感できたと思います。

また、参加した約180人の学生は、3時間という長時間の発表会でしたが集中力を維持しながら聞いていたようでした。このことは一人ひとりの学生が今まで知らなかった分野に触れ、新たな知識を得、新たな考え方に接したことが大きな要因だと考えます。

このような研究発表会の多くの成果を大切にしながら、私たちは今まで知らなかった未知の領域に対する疑問や興味関心をもち、今後一層探究心の向上に努めていきたいと思います。（運営委員長・総合教養学科２年／土田宗太朗）

松浦武四郎「石狩日誌」を製本する
和本づくりを体験して

和本のことはテレビで見たことしかなく、よく知りませんでした。実際に作ってみると、方法は非常に簡単です。針と糸さえあればどんな紙の束も製本できるところが魅力の一つだと思いました。また、見栄えがいいので、本棚に並んでいても素敵に感じます。

和本を作る機会はあまりないため、図書館司書の授業（書誌学）で作ることができて大変勉強になりました。他の場所ではなかなかできない体験だったと思います。

テレビでしか見たことのないような本が、簡単に楽しく作れるこの方法を、ぜひ他の方にも試していただきたいです。汎用性が高い製本方法だと思うので、メモ帳やノートなどいろいろと作ることができそうです。

これからもこの方法を使って、自分専用の和本を作ってみたいです。（国文学科１年／伊藤周）

2年ぶり初等教育研究会
教育実習の成果を報告

1月19日に本学で、初等教育研究会が2年ぶりに開催されました。研究会では、矢口ゼミの「ミツバチと蜜源植物が生活と環境に与える影響」、春田ゼミの「食育について私たちが取り組んだこと」、田代ゼミの代表者2人による「教育実習を通して得た学びについて」の発表など2年間の成果が報告されました。

私は、田代ゼミの代表として「教育現場における教師の支援の在り方」と題して発表をさせていただきました。3週間の教育実習で感じたことや学んだこと、児童の実態を踏まえた支援策とその支援により期待されること、そして、実際の研究授業の様子やその反省と改善点についてまとめて発表しました。教育実習では、大学の座学だけでは学ぶことのできないことで溢れていて、毎日が学びの連続でした。そんな充実した3週間を発表時間の15分間に集約して発表するのはとても大変でしたが、この研究会での発表を通して、より学びを深めることができました。新型コロナウイルスの影響で昨年の研究会は中止となっており、先輩の発表を見ることができなかったため、右も左も分からない中での研究会でしたが、なんとか無事に終えることができました。

4月からは國學院大學人間開発学部の初等教育学科に編入します。本学での2年間の学びを糧に、教師になるという夢を叶えるため日々精進していきます。（幼児・児童教育学科児童教育コース2年／馬場友里奈）

令和３年度はる展

オープンカレッジ受講生の絵画・書等、学生作品の展覧会です。

日時／令和４年３月６日(日)～13日(日)10:00～17:00(入場16:30まで)

※６日(日)は13:00開場　※７日(月)休館日

※13日(日)は15:00終了

会場／滝川市美術自然史館

※６日(日)13:15～14:15「大人のためのクラシックピアノ」受講生によるコンサートを開催

※12日(土)13:00～15:00ワークショップ「かんたんおもちゃ」を作ろう!!

入場無料